

沖縄民謡と会話を楽しむ

島唄ミニコンサート

日本現代詩歌文学館の2017年度常設展「詩歌と音のプリズム」関連イベント「島唄ミニコンサート」(同館主催)は4日～6日の3日間、同館で行われました。

同館では「北上・みちのく芸能まつり」に合わせ、館の一部を無料休憩所として開放し、同イベントを実施。沖縄県出身の石垣憲司さんが、トークを交えながら三線を使って沖縄民謡を披露しました。沖縄が好きと話す及川順光さん(56歳・川岸)は「歌も良く、口調もやわらかくて話も楽しい」と耳を傾けていました。

石垣さんの沖縄民謡や、沖縄と北上の違いなどの話に聞き入る皆さん



完成したポスターを手にする生徒たち。ポスターは各店舗に引き渡されました

学生がポスターをデザイン

第2回ワクワクまちなかプロジェクト

第2回ワクワクまちなかプロジェクト(北上商店街連合会、北上ハイテクペーパー(株)主催)のポスター引渡式は7月29日、ツインモールプラザ2階りぼん橋で行われました。商店街や街なかを元気にすることを目的としている同プロジェクト。市内全高校と専門学校の学生79人が同連合会加盟の商店街58店舗のポスターデザインを作成し、同社が紙の提供と印刷を行いました。小田島玲さん(専修大学北上高校3年)は「写真を大きくするなど工夫した」と話していました。

口内大名行列を再現

第11回浮牛城まつり

第11回浮牛城まつり(同実行委員会主催)は16日、口内地区で行われました。

まつりの目玉、口内大名行列は慶応2年に浮牛城主が仙台から口内へ戻る際の様子を再現したもの。今年の殿様役は、演歌歌手の三浦わたるさんが務め、装束を身にまとった約60人とともに同地区交流センターから浮牛城址公園までの約1kmを練り歩きました。

浮牛城址公園では、餅まきや民俗芸能などがまつりを盛り上げ、たくさん見物客を魅了しました。

三浦さんを殿様役に迎え、町内を練り歩く大名行列



約200人を前に、久那斗神社境内で仏の教えを説く山田貫主

心おだやかに仏の教え

第14回青空法話

歴史・文化講座「第14回青空法話」(和賀地区自治協議会主催)は7月22日、中尊寺貫首の山田俊和師を招き、国指定重要文化財の多聞院伊澤家住宅に隣接する久那斗神社境内で開かれました。山田貫首は「佛さまについて」と題し、死後の旅路を見守ってくれる十三仏のうち四つの仏の役割について説明。集まった約200人が耳を傾けました。毎年来ていているという高田トミ子さん(和賀町岩沢)は「分かりやすく話していただいた。来年も楽しみにしている」と話していました。

地域や仲間との絆深まる

江中芸能発表会・えぶりこ伝統芸能のつどい

第40回江中芸能発表会・29年度えぶりこ伝統芸能のつどい(同実行委員会、江釣子中学校PTA主催)は11日、同校で行われました。同発表会は、地域に伝わる伝統芸能の保存・継承・発展や、後継者の育成を目的に毎年開催。全校生徒が17行政区に伝わる芸能を発表したほか、特別出演の山田境田虎舞が迫力ある舞を披露しました。生徒たちは、自分の住んでいる地区の芸能を担当し、各保存会に指導してもらい取り組んできた練習の成果を、存分に発揮していました。

3年生2人、2年生2人が披露した10区の「道の上山伏神楽」



捨てられていたたくさんのごみを回収する参加者

協力して市内をきれいに 北上市クリーン活動

北上市クリーン活動(北上市公衆衛生組合連合会主催)は7月30日、広表橋周辺で行われました。

同連合会では、市内の環境美化推進を図るため公衆衛生組合長を中心に年1回活動を実施。参加した組合員や市民など約120人が3グループに分かれて各約2kmのコースを清掃し、可燃・不燃合わせて約160kgのごみを回収しました。父親と一緒に参加した齋藤那奈美さん(江釣子小2年)は「お菓子の袋とかを拾った。ごみを拾うのは大変」と話していました。

ものづくりへの思い届ける

いわてふるさと納税事業者アワード2017

いわてふるさと納税事業者アワード2017(きたかみ観光コンベンション協会主催)は5日、さくらホールで行われました。ふるさと納税の返礼品を提供している事業者を寄附者や市民へPRするための大会で全国初開催。県内から7人が出場し、ものづくりへの思いやこだわりなどを発表しました。大賞を受賞したP&Cリンクスタッフの菅原遥奈さん(大堤東)は、八百屋の仕事を通じた経験を発表。「今後も農家さんの思いを全国へ届けていきたい」と喜びを語りました。

トロフィーを抱え、受賞の喜びを語る菅原さん



たくさんのお客さんでにぎわうまつり会場で餅まきが行われました

まつりの主役は子どもたち

第31回常盤台七夕まつり

第31回常盤台七夕まつり(同実行委員会、常盤台・堤ヶ丘商工振興会主催)は7月29日、同地区で行われました。同まつりは、子どもたちに地元への愛着と誇りを持ってもらうことを目的に毎年開催しています。

今年は多くの子どもに参加してもらうため、例年より時間を早めて実施。黒沢尻北小学校合唱部など子ども約130人を含む団体のステージ発表が会場を盛り上げていました。父親と訪れた宮本拓弥君(黒沢尻北小1年)は「楽しい。来年も来たい」と話していました。